



<来週の資金需給予想とイベント予定>

(単位: 億円)

日付	資金需給予想			主な要因	オペ期日	オペスタート	イベント
	銀行券要因	財政等要因	資金過不足				
10/17 (月)	▲ 300	+ 76,900	+ 76,600	国債発行 (5年) 国庫短期証券発行償還 (3M)	国債補完供給 + 14,000 CP等買入 ▲ 500	CP等買入 + 4,000 国債買入 + 1,200	日: 鉱工業生産 (8月) 米: NY連銀製造業景況指数 (10月)
10/18 (火)	ト	+ 2,000	+ 2,000				米: 鉱工業生産 (9月)
10/19 (水)	▲ 2,000	▲ 12,000	▲ 14,000	国債発行 (20年)			欧: CPI (9月)
10/20 (木)	▲ 2,000	+ 1,000	▲ 1,000	国庫短期証券発行償還 (1Y)			日: 貿易収支 (9月) 米: 新規失業保険申請件数
10/21 (金)	▲ 1,000	+ 2,000	+ 1,000				日: CPI (9月)

<インターバンク>

日銀当座預金残高は週初、国庫短期証券の発行を主要因に前営業日対比で1兆4,300億円減少し、484兆300億円から始まった。その後、12日には国債買入れオペ、14日は年金定時払いを主要因に493兆900億円まで増加し越週した。無担保コールON物加重平均金利は週初、前営業日対比0.001%低下の△0.022%からスタートし、その後は低下基調を辿った。同金利は、週末ON物が新積み期にかかる3日積みであったことも意識されたことから資金調達ニーズが一層弱まり、△0.042%(速報)で越週した。ターム物は10月積み期スタートを中心に、主に△0.065%~△0.050%のレンジで取引された。来週の主な予定として、国内では20日に貿易収支 (9月)、21日にCPI (9月) の発表が挙げられる。海外では18日に米国の鉱工業生産指数 (9月)、19日に欧州のCPI (9月) の発表が挙げられる。

[無担保コールレート]

	予想レンジ (%)
O/N	△0.087 ~ 0.001
1M	△0.060 ~ 0.020
2M	△0.010 ~ 0.050
3M	0.000 ~ 0.130
6M	0.000 ~ 0.150

<レポ>

足許GC取引は週を通して△0.09%~△0.08%で推移した。新積み期入りする14日の取引でも水準に変化は見られなかった。SC取引は2年440・441回債、10年350~367回債、20年179~181回債、30年73~76回債、40年12~15回債などに引合いが多く見られた。

[オープン市場]

	予想レンジ (%)
現先 (on/1w)	△0.050 ~ 0.000
CP 3M	0.000 ~ 0.005

<C P>

今週の入札発行総額は約7,900億円で、週間償還額 (約4,700億円) を上回った。発行市場は、石油や鉄鋼等の業態で大型の発行が実施された。発行残高は先週末時点の25兆1,580億円から13日時点で25兆5,074億円に増加した。発行レートは0%から小幅なプラス圏での出会いが中心であった。12日に、CP等買入オペが予定通り4,000億円でオファーされた。結果は、按分レート0.001% (前回0.002%)、平均落札レート0.006% (前回0.031%) と案分・平均落札レートが共に前回比で低下した。

来週の週間償還額は、約7,300億円となっている。発行市場は、20日と25日絡みの発行が見込まれるため発行超を予想する。発行レートは格付や発行残高等によりやや幅の広いレンジ圏での出会いを予想する。

<TDB>

10月14日の3M1114回債の入札は、最高落札利回り△0.1358% (前回債△0.1598%)、平均落札利回り△0.1511% (前回債△0.1899%) となった。来週は19日に1Y (1115回)、21日に3M (1116回) の入札がある。